

「短大在學生調査」からみた純真短大の教育

石橋 孝明

The Education of Junshin Junior College based on “Junior College Student Research”

by

Takaaki ISHIBASHI

はじめに

本研究は、本学も参加した、大規模な「短大在學生調査」の結果に基づく、本学学生の実態調査結果とその分析である。

「短大在學生調査」は、「短期大学コンソーシアム九州」が平成21年9月から11月にかけて実施した調査で、長崎短期大学の安部恵美子学長を研究代表者とする「短期大学教育と地域ステークホルダーに関する総合的研究」（平成21年度科研費助成事業）の一環としてなされたものである。調査方法は短大ごとに質問紙を配布しその回答を集計調査したものである。調査には全国48短大が参加し、平成21年度の在學生7,839人（女性7,465人、男性374人）が対象となった。

本学は、平成21年度の食物栄養学科学生61名、こども学科学生54名が参加した。

この調査は、学生の短期大学入学前のこと（A）、本学への入学方法や入学動機のこと（B）、短大入学後のこの半年間の短大での学習活動などのこと（C）、家族や現在の生活のこと（D）、将来の生活のこと（E）について、それぞれ小項目をたてて質問している。そこで、この調査による全体平均と本学学生の平均とを比較対照することで、本学学生の特徴を浮かび上がらせ、本学教育の特徴と課題を明らかにしていきたい。

本研究の章立ては、本学入学前の学生のこと（1…調査AとB）、本学入学後の学生のこと（2…調査CとD）、卒業後の希望（3…調査E）に大別する。

1 本学入学前の学生のこと

本章では、本学に入学している学生が、高校等の在籍時代どのような科に在籍していたか、また、授業以外の学習時間や学習内容についての意識はどのようなものであったか、高校等の在籍時代の生活経験、短大入学前の短大生活への期待はどのようなものであったか、本学への入学方法や1年前の第1希望の進路先、本学への進学理由等を、調査短大全体と比較対照して、その特徴を抽出した。

受理日 平成22年11月24日

純真短期大学食物栄養学科 元教授

本学は食物栄養学科とこども学科の二学科構成であるので、「短大在学生調査」の「家政」と「教育」を比較対象としている（調査短大の学科区分は、人文、社会、教養、工業、農業、保健、家政、教育、芸術、その他である）。

(1) 高校等の在籍科と授業以外での1週間の勉強時間

		短大全体		本学全体		
		家政	教育	食栄	こども	
在籍高校等の学科	普通	69.1%		69.3%		
		69.6%	64.4%	71.7%	66.7%	
	商業	9.0%		7.0%		
		7.9%	9.7%	6.7%	7.4%	
	家庭	4.6%		4.4%		
		6.5%	5.3%	6.7%	1.9%	
	総合	8.3%		7.9%		
		8.9%	9.3%	11.7%	3.7%	
	その他	9.0%		11.4%		
		7.1%	11.3%	3.2%	20.3%	
	調査人数(複数回答可)		8,044人		121人	
			1,994人	2,861人	60人	61人

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
全くしなかった		19.7%		21.4%	
		21.8%	18.0%	23.3%	19.2%
0~2時間未満		37.5%		40.2%	
		28.1%	38.6%	30.0%	51.9%
2~6時間未満		24.3%		23.2%	
		23.5%	24.6%	25.0%	21.2%
6~11時間未満		9.9%		9.8%	
		9.3%	10.4%	16.7%	1.9%
11時間以上		8.8%		5.4%	
		7.3%	8.5%	5.1%	5.8%
調査人数(複数回答可)		7,821人		112人	
		1,943人	2,763人	60人	52人

本学に進学した学生の高校等の在籍科は、調査短大全体と同様、その7割が普通科出身である。短大全体と比較した本学の特徴は、数値の背景を変えた箇所、食物栄養学科への進学は、普通科、商業科、家庭科、総合科以外の学生はきわめて少ないということである。また、こども学科への進学は、家庭科、総合科からの進学は少なく、その他の学科からの進学が意外と多いということである。その詳細は、この表には表れていないが、福祉科から7.4%、工業科から5.6%であった。これらの学科から本学のこども学科に進学するという事実は、本学の広報活動に際して銘記しておくべきことである。

そして、授業以外での1週間の勉強時間は、全くしていない学生が2割で、6時間未満だと8割5分もいる。これは1日1時間未満の学習時間であり、予習・復習の習慣のない学生が多くを占めているということである。食物栄養学科もこども学科も厚生労働省指定の養成校であり、資格取得のためにそれなりの学びが必要であるとういことを考えると、学ぶ姿勢を習慣化するためかなりの工夫が必要であることが分かる。

(2) 高校等の在籍時代に力を注いだ学習経験と学習内容の評価

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
授業への出席	4.4		4.3	
	4.4	4.5	4.4	4.3
宿題	3.7		3.6	
	3.7	3.7	3.8	3.4
テスト前の勉強	3.9		3.9	
	3.9	4.0	4.0	3.7
予習・復習等の家庭学習	2.4		2.3	
	2.3	2.4	2.6	2.1

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
高校の勉強はおもしろかった	3.2		3.1	
	3.2	3.2	3.4	2.9
高校の勉強は将来役に立つと思っていた	3.2		3.2	
	3.2	3.3	3.3	3.1
何のために勉強するのかわからなかった	3.3		3.3	
	3.2	3.4	3.4	3.1

これらの評価は5段階評価で、評価点が高いほど、評価が高いことを示している。

高校等の在籍時代に傾注した学習経験は、調査短大全体の評価点と大差ない。ただ、短

大全体の傾向としては、家政科よりも教育科の方がわずかに評価点が高いが、本学では、食物栄養学科の方が評価点が高いという差異はみられる。これらの観点のうち、先ほど(1)の評価でも明らかになったように、予習・復習の家庭学習はあまり力を注いでいないことが分かる。この表には表れていないが、調査原表をみると、予習・復習の家庭学習に6割近くが力を注いでいないことがわかる

高校等の学習内容の評価も短大全体の評価点と大差ないが、同じように、本学では食物栄養学科の方が評価点が若干高くなっている。高校等の学習内容の評価点が平均点を少し上回るということは、学習内容の必要性をそれなりに評価しているということである。しかし、本学のこども学科では、高校の勉強をおもしろくなかったとしている者が若干上回っている。調査原表をみると、本学全体で、高校の勉強をおもしろくない、役に立たないと思っている者が4人に1人で、何のために勉強するのかわからない者が5人に1人いる。こども学科では、高校の勉強をおもしろくなかったとする者が3人に1人である。

(3) 高校等の在籍時代に力を注いだ生活経験と短大入学前の短大生活への期待

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
友達との交際	4.3		4.4	
	4.2	4.4	4.4	4.5
趣味	4.0		4.2	
	3.9	3.9	4.2	4.2
サークル・クラブ・部活動	3.5		3.4	
	3.4	3.8	3.3	3.5
授業に関する勉強	3.3		3.2	
	3.2	3.3	3.3	3.1
実習やインターンシップ等	2.9		3.1	
	2.8	3.3	3.0	3.3
授業とは関係ない勉強	2.9		2.9	
	2.9	2.9	3.1	2.6
アルバイト	2.5		2.4	
	2.5	2.4	2.4	2.3
ボランティア活動	2.4		2.5	
	2.3	2.7	2.4	2.7
その他	2.8		3.1	
	2.6	2.8	3.0	3.1

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
新しい友達との出会い	4.3		4.3	
	4.2	4.4	4.2	4.4
将来の職業に役立つ勉強	4.3		4.2	
	4.2	4.4	4.2	4.3
興味のある分野の勉強	4.2		4.2	
	4.1	4.3	4.3	4.1
自由な雰囲気	4.1		4.2	
	4.1	4.1	4.3	4.2
人としての教養を深めること	3.8		3.7	
	3.7	3.9	3.7	3.8
趣味等の活動	3.7		3.8	
	3.7	3.7	3.8	3.8
アルバイト	3.6		3.5	
	3.5	3.6	3.6	3.4
良い先生との出会い	3.5		3.6	
	3.4	3.6	3.5	3.8
サークル・部活動等での活躍	3.0		2.8	
	2.9	3.1	3.0	2.7
ボランティア活動	2.7		2.6	
	2.5	3.0	2.7	2.4
一人暮らし	2.2		3.2	
	2.2	2.2	3.2	3.3

高校等の在籍時代に傾注した生活経験は、調査短大全体の評価点と大差ない。本学では、「勉強」に関しては食物栄養学科の学生の方が力を注いだということが分かる。しかし、「実習」や「サークル活動」ではこども学科の学生の方が力を注いでいる。「ボランティア活動」に関しては5割近くが、また「アルバイト」は6割の生徒が力を注いでいないが、「友達との交際」では8割5分近くの生徒が、そして「趣味」には8割近くの生徒が力を注いでいる。

短大入学前の短大生活への期待に関しては、「一人暮らし」への期待以外は、調査短大全体の評価点と大差ない。本学入学生の特徴として、福岡県出身の学生が3割5分を切り、他県からの入学生が多いので、「一人暮らし」への期待度が大きいと考えられる。その他は、調査短大全体と同じ傾向を示しているのであるが、「新しい友達との出会い」や「将来の職業に役立つ勉強」、「興味ある分野の勉強」、「自由な雰囲気」に期待度が高く、

8割以上の生徒が期待を示している。「人としての教養を深めること」や「良い先生との出会い」に関しては、6割近くの生徒が期待を示している。

「ボランティア活動」には5割の生徒が、「サークル・クラブ・部活動等」には4割の生徒が期待していないと答えている。「趣味等の活動」への期待度は7割近く、「アルバイト」への期待度は6割近くあり、「ボランティア」や「サークル等の活動」より期待が大きい。「アルバイト」は高校在籍時代には3割の生徒が力を注いだと答えているのであるが、「アルバイト」への期待度がその倍近くになっているということは、社会経験への期待、学費・小遣いの必要性からくるのであろう。「ボランティア活動」に関しては、調査短大全体と差異はほとんどないのであるが、短大全体の教科より本学のこども学科の方が0.6ポイントも低く有意な差がでている。

(4) 本学への入学方法と1年前の第1希望の進路先

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
入学方法	指定校推薦	45.8%		33.0%	
		49.0%	47.6%	32.8%	33.3%
	公募(一般)推薦	19.3%		26.1%	
		18.9%	25.7%	23.0%	29.6%
	AO	17.9%		16.5%	
		15.9%	12.3%	19.7%	13.0%
	一般	13.6%		14.8%	
		12.0%	11.7%	13.1%	16.7%
社会人	1.4%		2.6%		
	2.5%	1.5%	4.9%	0%	
その他	1.9%		7.0%		
	1.7%	1.3%	6.6%	7.4%	

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
1年前の第1希望	本学への進学	48.2%		34.8%	
		46.1%	55.1%	36.1%	33.3%
	他の短期大学	9.6%		14.8%	
		9.2%	11.9%	9.8%	20.4%
	四年制大学	13.9%		13.0%	
		13.3%	9.8%	18.0%	7.4%
	専門・各種学校	5.5%		9.6%	
		6.6%	3.4%	9.8%	9.3%
	就職	4.8%		7.0%	
		5.3%	3.8%	6.6%	7.4%
まだ迷っていた	17.1%		19.1%		
	18.8%	15.1%	18.0%	20.4%	
その他	0.9%		1.7%		
	0.7%	0.9%	1.6%	1.9%	

本学への入学方法は、調査短大全体と比較して指定校推薦が13%近く低く、その代わり一般推薦とその他が高くなっている。その他は、奨学生推薦入試を含む。本学の場合、他短大に比して指定校との結びつきが弱いことが伺える。

1年前(昨年の8、9月頃)の第1希望の進路先に関しては、調査短大全体と比較して本学への進学希望が13.4%も低く、食物栄養学科では10.0%、こども学科では21.8%低い。それに対して、食物栄養学科では4年制大学への進学希望が多く、これは管理栄養士の資格取得を考えていたと推察することもできる。また、こども学科では他の短期大学を考えていた者とまだ迷っていた者が多い。本学進学者のうち、食物栄養学科では10人に1人が、こども学科では5人に1人が他の短期大学を希望していたということは銘記しておくべきである。また、専門学校や各種学校を考えていた者が10人に1人、就職を考えていた者が7%いる。本学全体として、65.2%の学生が必ずしも本学を希望していなかったということは大きな事実である。本学を第1に希望してくれた学生を含め、これらの学生が本学にきて良かったと思える教育をしていく必要がある。

(5) 本学へ進学した理由とその頃の家族の考え

(複数回答可)	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
本学に学びたい分野があった	64.0%		72.2%	
	62.4%	70.8%	65.6%	79.6%
取得したい資格・検定の勉強	60.8%		60.0%	
	57.5%	72.8%	60.0%	55.6%
自宅(親元)から通える距離	37.4%		14.8%	
	37.4%	41.9%	18.0%	11.1%
就職に有利だと思ったから	34.8%		18.3%	
	30.5%	40.1%	14.8%	22.2%
高校の先生に勧められた	20.3%		9.6%	
	20.7%	21.7%	9.8%	9.3%
学校の場所や施設設備が良い	20.1%		47.8%	
	17.6%	25.5%	39.3%	57.4%
自分の学力に合っている	16.5%		13.0%	
	15.9%	16.3%	6.6%	20.4%
親や友達の勧められた	15.4%		20.0%	
	15.0%	16.3%	23.0%	16.7%
より教養を身につけるため	15.0%		3.5%	
	13.2%	13.3%	3.3%	3.7%
より早く社会に出られる	10.9%		7.8%	
	11.4%	11.3%	3.3%	13.3%
希望の大学・短大等に進めない	9.5%		5.2%	
	8.9%	6.8%	4.9%	5.6%
経済的な理由から	8.7%		12.2%	
	9.5%	8.7%	9.8%	14.8%

続き(複数回答可)	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
校風や建学の精神が好き	8.1%		12.2%	
	7.3%	8.7%	8.2%	16.7%
専攻科があったから	7.2%		4.3%	
	9.5%	9.2%	4.9%	3.7%
大学への編入制度があったから	6.5%		2.6%	
	6.8%	3.3%	3.3%	1.9%
高卒での就職がなかったから	2.2%		0.9%	
	2.5%	1.1%	0.0%	1.9%
その他	2.9%		2.6%	
	3.3%	2.7%	1.6%	3.7%

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
家族は短大の教育内容を熟知	3.3		3.3	
	3.3	3.4	3.2	3.3
家族と短大進学をよく話した	3.8		3.9	
	3.7	4.0	3.7	4.2
家族は私の短大進学を応援した	4.1		4.2	
	4.0	4.3	4.0	4.4
家族は私の短大進学を喜んだ	3.9		4.1	
	3.9	4.1	3.9	4.2

この表の進路先理由は、調査短大全体の数値の高いものから順に並べている。

調査短大全体のベスト5は、①「学びたい分野」②「取得したい資格・検定」③「自宅から通える」④「就職に有利」⑤「高校の先生の勧め」であるが、本学全体では、①と②は同じ順位で、③「学校の場所や施設設備の良さ」④「親や友達の勧め」⑤「就職に有利」となっている。

本学へ進学した理由を調査短大全体と比較してその特徴をみると、数値の背景を変えた箇所とそのことが示されている。本学への進学理由の第3位に「学校の場所や施設設備が良い」が挙げられ、短大全体に比してダブルスコアで高く評価されている。「自宅から通える距離」「就職に有利だ」「高校の先生の勧め」という理由は、短大全体に比べかなり低く評価されている。本学への進学者は、(3)で言及したように、福岡県出身者以外が5割5分強を占めているので、「自宅から通える距離」は低い評価となっている。「就職に有利だ」という理由がダブルスコアに近く低い理由はどうしてだろうか。平成21年度入学生が知る本学の就職希望者の就職率は、食物栄養学科95.7%、こども学科95.5%であるから(平成22年度、92.3%と94.1%、平成23年度、90.6%と100パーセント)、就職率はよいのであるが、この情報が十分に周知されていないということであろうか。そして、「高校の先生の勧め」もダブルスコアで低い。これは、本学の姉妹校である東和大学の閉鎖という事態が大きく影響していると考えられる。しかし、現在、本学園は新たに純真学園大学の設置認可申請中であり、認可されれば本学の評価も大きく好転すると考えられる。「高校の先生の勧め」は調査短大全体と比して低いのであるが、「親や友達の勧め」は評価が高く、5人に1人が本学への進学理由に挙げている。これは、本学を知っている者が進学を勧めてくれていると考えられ喜ばしいことである。

1年前の第1希望の進路先調査(4)では、他の短期大学、4年制大学への進学が併せて27.8%(32人)いたのが、この調査では「希望の大学・短大等へ進めない」を理由に挙げた者が5.2%(6人)に減少したのは、その間に進路変更があったとみること

ができる。それはこども学科に特徴的に表れている「自分の学力に合っている」という数値の高いことから推察される。

短大進学者は、大学と比べて経費がかからずに資格がとれてより早く社会に出られるために進学するといわれており、確かに資格の件ではそのように言えるが、経費や社会にでられることはそれほど評価の低いことがわかる。とはいえ、いずれも5人に1人位はそう考えている。「校風や建学の精神」に関しても、5人に1人位は考慮していることが分かる。また、高校の進路指導では、専門学校と比べて人間形成としての教養教育が充実しているから短大を勧めると言われているが、とりわけ本学の進学者は、このことを重視していないことが分かる。

ちなみに、本学には専攻科はないのに何人かが進学理由に挙げていることからみても、調査の正確性の精度は割り引いて考える必要がある。

本学に入学した頃の家族の考えは、調査短大全体と比較してほぼ同じである。本学の場合、いずれの評定値もこども学科の方が評価が若干高い。本人の短大進学を応援し入学を喜んでくれた家族は調査原表をみると75%以上にのぼることが分かる。

では次に、学生が短大に入学して半年間が経過した後の学生の学習活動や学習態度、学習支援や短大生活全般に対する満足度、半年間の変化、生活費や家族の思い等の調査を、調査短大全体と対比して、調査結果を分析してみよう。

2 本学入学後の学生のこと

(1) 前期の授業中に力を注いだ活動とそれに費やした1週間の合計時間

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
友人との交際	4.1		4.2	
	4.1	4.3	4.1	4.4
授業に関係する勉強	3.8		3.7	
	3.8	3.8	3.8	3.5
趣味	3.7		3.6	
	3.6	3.6	3.7	3.6
アルバイト	3.1		2.9	
	3.1	3.1	3.1	2.6
授業とは関係ない勉強	2.9		2.8	
	2.8	2.9	3.1	2.5
実習やインターンシップ等	2.9		2.7	
	2.7	3.5	2.8	2.6
サークル・クラブ・部活動	2.2		2.1	
	2.1	2.3	2.2	2.1
ボランティア活動	2.1		1.9	
	1.9	2.4	2.0	1.7
その他	2.5		2.8	
	2.3	2.5	2.7	3.0

右記の表の評定点は下記の通りである。
 前期の授業期間中に費やした1週間の合計時間に関し、授業の勉強は、1 (0~16h未満) 2 (16~21h 未満) 3 (21~26h未満) 4 (26~31h未満) 5 (31~36h 未満) 6 (36h以上)。
 その他は、1 (0h) 2 (0~2h未満) 3 (2~6h未満) 4 (6~11h未満) 5 (11~21h未満) 6 (21~31h未満) 7 (31h以上)。

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
友人との交際	4.6		4.7	
	4.4	4.8	4.3	5.1
テレビを見る	4.0		4.4	
	3.9	4.1	4.2	4.5
アルバイト	3.4		3.0	
	3.3	3.4	3.1	2.8
家事手伝い	3.2		3.8	
	3.3	3.3	4.0	3.6
授業に関係する勉強	3.0		3.6	
	2.8	3.5	3.3	3.8
テレビやパソコンでのゲーム	2.5		2.6	
	2.5	2.3	2.7	2.4
授業以外の勉強や宿題	2.4		2.3	
	2.5	2.5	2.5	2.0
趣味としての運動やスポーツ	2.2		1.9	
	2.1	2.3	1.9	1.9
趣味としての読書	2.1		1.8	
	2.1	1.9	2.0	1.6
実習やインターンシップ等	2.1		1.6	
	1.8	2.6	1.5	1.6
授業以外での教員との会話	2.0		2.3	
	1.9	2.1	2.2	2.5
インターネットでの友人交流	2.0		1.8	
	1.9	2.0	1.8	1.8
サークル・クラブ・部活動	1.8		1.6	
	1.8	1.9	1.5	1.8
ボランティア活動	1.6		1.3	
	1.5	1.8	1.2	1.3

前期の授業中に力を注いだ活動は5段階評価で、それに費やした1週間の時間は、注記

しているように、時間数を数値で表している。

これをみると5段階評価に関しては、本学学生の動向は調査短大全体と大差ない。しかし、こども学科で「実習やインターンシップ等、職場での就業体験」が明らかに少ない。これはそれに費やした1週間の合計時間をみても明確に示されている。その他に関しては、やはりこども学科で「ボランティア活動」と「アルバイト」が少ないくらいである。本学の学生が1週間に費やす時間で、調査短大より多いのは「授業に関係する時間（＝受講授業時間）」「授業以外での教員との会話」「テレビを見る」「家事手伝い」である。とりわけ、「家事手伝い」は食物栄養学科の学生に多い。

原表をみると、「授業に関係する時間（＝受講授業時間）」に力を注いだ者は3分の2で、食物栄養学科の学生の方がより力を注いでいる（食物栄養学科65.6%、こども学科59.2%）。「授業とは関係ない勉強」は7割強の学生がほとんど取り組んでおらず、こども学科の学生にその傾向が強い（食物栄養学科63.9%、こども学科81.5%）。この傾向は、「授業以外の勉強や宿題」にかかる時間を、高校時代と比較しても（1-（1）の表参照）ほぼ同じである（6h以下：本学「食栄」80.4%、「こども」94.4%、高校時代「食栄」78.3%、「こども」92.3%、2h以下：本学「食栄」57.4%、「こども」79.3%、高校時代「食栄」53.3%、「こども」71.1%）。

「授業以外での教員との会話」に関しては、全くしないが食物栄養学科19.3%、こども学科7.5%で、こども学科の学生の方が教員とのコミュニケーションがよくとれている。調査短大の家政と教育は、全くしないがそれぞれ、29.3%、21.4%であるから、本学の学生は全体として教員とのコミュニケーションがよくとれていると言える。

「テレビを見る」に関しては、週31時間以上見ている者が2割弱で、1日3時間以上見ている者が4人に1人である。

「家事手伝い」に関しては、1日1時間以上する者は「食栄」（54.3%）、「こども」（45.3%）、1日3時間以上は「食栄」（26.3%）、「こども」（18.9%）で、全くしない者は「食栄」（6.6%）、「こども」（18.9%）である。

「アルバイト」に関しては、全く経験しない者が4割強、反対に少しでも経験した者は6割弱で、1日3時間以上が7名、4時間以上が10名いる。

本学学生が大いに力を注いだ活動ベスト3は、①「友人との交際」（49.6%）②「趣味」（30.7%）③「アルバイト」（24.6%）である。それに対して、5割以上の学生が全くしない活動は、①「ボランティア活動」（82.3%）②「サークル・クラブ・部活動」（68.1%）③「インターネットでの友人交流」（66.7%）④「実習やインターンシップ等」（60.4%）⑤「趣味としての読書」（51.8%）で、「運動やスポーツ」（49.1%）も低調である。

（2）夏休み期間中に費やした1週間の合計時間

本学学生の前期の授業中に力を注いだ活動とそれに費やした1週間の合計時間（1）と同じ項目で夏休み中の学生動向を調査した結果をみると（ただし、授業は集中講義などで他の項目と同じく費やした時間数で7段階評価）、当然のことながら、前期の授業期間中よりも大幅に数値が下がったものが「授業に関係する勉強」（3.6→1.5）「授業以外での教員との会話」（2.3→1.4）で、少し下がったものが「サークル・クラブ・

部活動」(1.6→1.3)である。

「授業以外の勉強や宿題」に関しては本学全体としての数値は下がっているのであるが、こども学科では若干ながら数値が上がっており、宿題等の課題に取り組んでいることが伺える(「本学全体」2.3→1.9、「食栄」2.5→1.8、「こども」2.0→2.1)。

また、「家事手伝い」も若干数値が下がっているが、こども学科では数値が若干上がっている(「本学全体」3.8→3.7、「食栄」4.0→3.7、「こども」3.6→3.7)。

前期の授業期間中よりも数値が上がったものは、それゆえそれに費やした時間が増えたものは、「アルバイト」「友人との交際」「趣味としての運動やスポーツ」「テレビやパソコンでのゲーム」「テレビを見る」である。

(3) 前期の授業期間中の学習への取り組みと学習態度・成績の自己評価

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
授業に出席する	4.6		4.4	
	4.6	4.6	4.6	4.2
授業の課題をきちんと提出する	4.2		3.8	
	4.2	4.3	3.8	3.8
試験前には勉強をする	4.1		4.3	
	4.1	4.2	4.4	4.1
授業の配布資料プリントを整理	3.9		3.9	
	3.8	3.9	4.0	3.8
ノートの取り方を工夫する	3.4		3.6	
	3.4	3.5	3.6	3.5
インターネットを活用する	3.3		3.0	
	3.3	3.1	3.3	2.6
授業中質問に答え意見を述べる	2.8		3.0	
	2.7	2.9	2.9	3.1
授業中以外に教員とコミュニケーションをとる	2.8		3.3	
	2.6	2.9	3.2	3.5
辞書・電子辞書を活用する	2.8		2.7	
	2.6	2.7	3.2	2.1
図書館を利用する	2.8		2.8	
	2.7	2.7	3.2	2.4
授業の予習・復習をする	2.5		2.2	
	2.5	2.5	2.3	2.1
参考文献などを読む	2.4		2.6	
	2.4	2.3	2.9	2.2

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
アルバイトで授業を休む	4.8		4.6	
	4.8	4.8	4.7	4.5
サークルや趣味活動で授業を休む	4.7		4.6	
	4.8	4.7	4.7	4.5
授業に遅刻する	4.2		3.9	
	4.2	4.3	4.2	3.5
授業中に携帯電話やメールを使用	3.5		3.0	
	3.6	3.4	3.2	2.7
授業中に私語をする	3.3		3.0	
	3.3	3.1	3.2	2.7
成績はどの程度と思うか	2.9		2.8	
	2.9	2.9	2.7	2.8
その成績をどう思うか	2.8		2.6	
	2.8	2.7	2.4	2.8

いずれも5段階評価で、調査短大全体の評価点の高い順に項目を配列している。前期の授業期間中の学習への取り組みに関する評価は、1が全くしなかったで、5が日常的にしたである。それゆえ、数値が高いほど力を入れた取り組みになる。それに対し、学習態度・成績の自己評価に関する評価は、1が日常的にしたで、5が全くしなかったである。それゆえ、こちらも、数値が高いほど授業に熱心に取り組んでいることになる。

前期の授業期間中の学習への取り組みに関する、調査短大全体と対比した本学の特徴は、上位5位までの項目は同じであるが、「授業の課題をきちんと提出する」が4位になっており、他短大よりも低調である。それに対して、「授業中以外に教員とコミュニケーションをとる」は他短大よりも活発である。それは、2の(1)の調査結果でも示されていた。そして、短大全体の「家政」と対比して本学の「食栄」は、「授業の課題をきちんと提出

する」「授業の予習・復習をする」以外はすべて評点が高い。また、本学の「食栄」と「こども」を対比してみると、「こども」の評点が高いのは「授業中以外に教員とコミュニケーションをとる」と「授業中質問に答え意見を述べる」で、こども学科の学生は教員とのコミュニケーションがより活発であることが分かる。

学習態度の自己評価に関する、調査短大全体と対比した本学の特徴は、「授業中に携帯電話やメールを使用する」で、とりわけこども学科にその傾向が強い（「短大全体」18.6%、「家政」17.2%、「教育」21.0%、「本学全体」31.6%、「食栄」21.3%、「こども」43.3%）。そして、「授業中に私語をする」（「食栄」24.6%、「こども」33.9%）「授業に遅刻する」（「食栄」4.9%、「こども」22.6%）もこども学科で目立つ特徴になっている。

成績の自己評価に関しては、調査短大全体と大差ないが、予想成績が少し低く、それに対する不満度が少し高い。好意的に解釈すれば、本学では、食物栄養学科の学生は向上心が若干高いとみることができる。

（4）半年間の教育と学習支援に対する満足度

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
専門的知識や技術を身につける授業	3.8		3.6	
実践・職業で役立つ実学重視の授業	3.8	3.9	3.6	3.8
豊かな教養を身につける授業	3.7		3.6	
選択できる授業の多様性	3.6	3.9	3.5	3.6
学外体験（実習やインターンシップ）の機会	3.5		3.4	
わかりやすい授業	3.4	3.5	3.3	3.5
授業方法に工夫がある授業	3.4		3.2	
参加意識が持てる授業	3.4	3.3	3.1	3.4
私語のない授業	3.3		3.2	
	3.1	3.7	3.0	3.4
就職・進路支援の体制	3.3		3.3	
進路や悩みなどの気軽な相談体制	3.2	3.4	3.2	3.5
部活・サークル等の学生同士の交流	3.3		3.3	
授業以外での教員と交流する機会	3.2	3.3	3.3	3.4
精神的なケアや励まし	3.3		3.3	
	3.2	3.3	3.1	3.4
精神的なケアや励まし	2.9		2.7	
	2.9	2.8	2.7	2.7

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
図書館や情報設備	3.6		3.5	
就職・進路支援の体制	3.6	3.6	3.4	3.6
科目履修に関する助言や指導	3.5		3.5	
教員の専門分野に触れる機会	3.4	3.5	3.4	3.7
学習スキルを向上するための手助け	3.4		3.5	
就職や編入学など進路選択の励まし	3.4	3.4	3.4	3.7
進路や悩みなどの気軽な相談体制	3.3		3.5	
部活・サークル等の学生同士の交流	3.3	3.4	3.4	3.6
授業以外での教員と交流する機会	3.3		3.5	
精神的なケアや励まし	3.2	3.3	3.4	3.6
	3.2		3.5	
	3.2	3.2	3.5	3.4
	3.2		3.4	
	3.1	3.3	3.2	3.7
	3.0		3.0	
	3.0	3.2	2.8	3.2
	3.0		3.6	
	3.0	3.1	3.5	3.7
	3.0		3.3	
	2.9	3.1	3.1	3.6

いずれも5段階評価で、調査短大全体の評価点の高い順に項目を配列しており、評価点の高いほど満足度の高いことをしめしている。

半年間の教育に関しては、調査短大全体と比較して、本学の満足度はほぼ同じか若干低い。とりわけ、「家政」と比べて「食栄」の満足度が若干低い。本学こども学科の学生の方が、食物栄養学科の学生よりほぼすべての項目で満足度は若干高い。この結果は、本学で実施した平成21年度前期の「授業評価アンケート」と同じ結果を示している（食物栄養学科の平均4.0、こども学科の平均4.3）。満足度で平均点を下回るのは、「私語」に関してで、学生は当然のことながら「私語のない授業」を望んでいる。

学習支援に関しては、調査短大全体よりもほぼ全項目にわたって高い評価点を示しており、満足度の高いことが分かる。とりわけ、こども学科の学生は短大全体の「教育」と比較して高い満足度を示しており、教員とのコミュニケーションによる相談や精神的なケア

に対して高い評価を示している。食物栄養学科の学生も含め、本学の特徴は、学生と教員との親密度が高いことにあると言えよう。唯一、満足度が平均点を下回るのは、食物栄養学科学生の「部活・サークル等の学生同士の交流の機会」である。

(5) 入学後半年間の知識・技能・態度の変化と入学半年後の満足度

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
専門的な知識や技能	3.9		3.9	
	3.9	4.0	3.8	4.0
一般的な常識や礼儀・マナー	3.9		3.9	
	3.8	3.9	3.9	3.8
幅広い知識や教養	3.8		3.9	
	3.7	3.9	3.8	3.9
人とのコミュニケーション能力	3.8		3.8	
	3.7	3.9	3.8	3.8
最後までやり抜く力	3.7		3.7	
	3.7	3.9	3.8	3.7
学問に対する興味関心	3.7		3.6	
	3.7	3.8	3.6	3.6
社会の現実的な問題への関心	3.7		3.7	
	3.7	3.8	3.7	3.7
チームで仕事をする力	3.7		3.7	
	3.6	3.9	3.7	3.7
職業や進路選択への方向づけ	3.7		3.7	
	3.6	3.8	3.7	3.8
自分で考え、行動する力	3.7		3.8	
	3.6	3.8	3.8	3.7
多様なものの見方を知って受け入れること	3.7		3.6	
	3.6	3.7	3.6	3.7
ひとつの問題を深く探求する態度	3.4		3.5	
	3.3	3.5	3.5	3.4
リーダーシップ	3.2		3.3	
	3.1	3.3	3.4	3.3
自分に対する自信	3.2		3.2	
	3.1	3.3	3.3	3.1

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
新しい友だちとの出会い	4.2		4.3	
	4.1	4.3	4.2	4.4
将来の職業に役立つ勉強	3.8		3.7	
	3.7	4.0	3.6	3.8
興味ある分野の勉強	3.8		3.7	
	3.7	3.9	3.6	3.8
人としての教養を深めること	3.7		3.7	
	3.6	3.8	3.6	3.8
自由な雰囲気	3.7		3.7	
	3.7	3.7	3.6	3.8
一人暮らし	3.7		4.0	
	3.7	3.7	3.9	4.2
良い先生との出会い	3.5		3.7	
	3.4	3.6	3.5	3.9
趣味等の活動	3.4		3.4	
	3.4	3.4	3.4	3.5
アルバイト	3.2		3.0	
	3.2	3.2	3.3	2.7
ボランティア活動	2.8		2.7	
	2.7	2.9	2.8	2.7
サークル・クラブ・部活等での活動	2.7		2.5	
	2.7	2.8	2.6	2.5

いずれも5段階評価で、調査短大全体の評価点の高い順に項目を配列しており、入学後半年間の知識・技能・態度の変化は、評価1がひどく低下した、評価5がとても高まったという評価で、入学半年後の満足度は、評価1が全く不満、評価5が非常に満足である。

いずれの評価結果も、調査短大全体と本学の評価点は大差ない。入学後半年間の知識・技能・態度の変化で、若干、評価点の高い順位が異なることと、入学半年後の満足度で、「一人暮らし」の項目に関して、本学に顕著な満足度がみられること、「良い先生との出会い」の項目に関して、本学の評価が若干高いことくらいである。

入学後半年間の知識・技能・態度の変化は、本学学生もいずれの項目においても向上していると判断している者が多いのであるが、調査原表をみると、高まった(評価4と5)を選択した学生が50%を超えているのは、「多様なものの見方を知って受け入れること」以上の項目である。「ひとつの問題を深く探求する態度」以下は現状維持派が多い。

入学半年後の満足度が平均点を下回るのは、「ボランティア活動」と「サークル・クラブ・部活等での活動」、そしてこども学科で「アルバイト」の項目である。「サークル・クラブ・部活等での活動」の満足度の低いことは、直前の(4)の調査結果でも示されていた。

本学学生の入学半年後の満足度を短大入学前の短大生活への期待度(1の(3)の表)と比較すると、入学前の期待より満足度が上がった項目は、「一人暮らし」(3.2→4.

0)、「良い先生との出会い」(3.6→3.7)、「ボランティア活動」(2.6→2.7)、入学前の期待と満足度が同じ項目は、「新しい友達との出会い」(4.3→4.3)、「人としての教養を深めること」(3.7→3.7)、入学前の期待より満足度が下がった項目は、「将来の職業に役立つ勉強」(4.2→3.7)、「興味ある分野の勉強」(4.2→3.7)、「自由な雰囲気」(4.2→3.7)、「趣味等の活動」(3.8→3.4)、「アルバイト」(3.5→3.0)、「サークル・部活動等での活躍」(2.8→2.5)、である。

これをみると、短大での専門教育がまだまだ職業と結びついていず、思ったよりも興味を惹きつけず、しかし、学生生活は授業で忙しくて「自由度」が思ったよりもなく、「趣味」「アルバイト」「部活」にも時間が割けなくて満足度が低いことが伺える。

(6) アルバイト経験と短大進学についての家族の現在の考え

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
アル バ イ	ある	72.3%		60.7%	
		70.9%	72.9%	63.9%	56.9%
ない		27.7%		39.3%	
		29.1%	27.1%	36.1%	43.1%
アル バ イ ト 使 い 道 の 入 入 の	服飾費	78.4%		79.4%	
		79.6%	78.0%	76.9%	82.8%
	預貯金	56.8%		44.1%	
		57.0%	57.1%	48.7%	37.9%
	交際費	50.7%		48.5%	
		50.9%	47.3%	46.2%	51.7%
生活費	37.9%		52.9%		
	39.0%	36.9%	59.0%	44.8%	

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
家族と短大生活についてよく話す	3.6		3.8	
	3.5	3.8	3.7	3.8
家族は短大生活を応援している	4.0		4.3	
	3.9	4.2	4.2	4.4
家族は短大進学を喜んでいる	3.7		3.9	
	3.7	4.0	3.9	4.0
家族は卒業後良い就職を望んでいる	4.2		4.3	
	4.2	4.3	4.2	4.5
家族は卒業後良い進学を望んでいる	2.6		2.8	
	2.5	2.7	2.8	2.8

アルバイト収入の使い道は複数回答可で、多い順に4項目挙げている。本学こども学科の学生はアルバイト経験をしていない学生が調査短大全体に比して多い。アルバイト収入の使い道は、全般に服飾費が最も多いが預貯金もしているという堅実さが伺える。

短大進学についての家族の現在の考えは、いずれの項目も本学学生の評価点が少し上回っている。本学に進学した頃の家族の考え(1の(5)の表)と現在の考えを比較してみると、家族の考えは大きく異なっていない。短大進学に対する喜びが少し下がっているが(4.1→3.9)、これは想定内の反応といえるだろう。家族が卒業後の良い就職を望んでいるのは当然であると考えられるが(そう思う、非常にそう思う(評価4と5)の回答が「食栄」77.0%、「こども」86.5%)、進学を望んでいる家族もかなりいる。原表をみると、そう思う、非常にそう思う(評価4と5)と答えた学生は食物栄養学科で18人、こども学科で23人いる。これらの学生の思いに応えられる支援をしていくことも大切である。

3 卒業後の希望

本章では、短大卒業後の生活についての考えを、調査短大全体との比較対照のもと分析していく。短大卒業後の進路、進学理由や仕事を選ぶ基準、望ましい女性の生き方や望ましい男性の生き方、人生において最も重視していることなどである。

(1) 短大卒業後の希望進路および進学理由と将来の仕事を選ぶ基準

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
短大卒業後の希望進路	正規の職員として就職	85.8%		83.8%	
		84.4%	89.4%	81.7%	86.3%
	四年制大学に編入進学	6.6%		4.5%	
		6.4%	3.0%	5.0%	3.9%
	短大専攻科に進学	1.7%		0.9%	
		0.9%	3.0%	1.7%	0.0%
	契約・派遣社員就職	1.3%		1.8%	
		2.3%	0.8%	1.7%	2.0%
	専門学校に進学	1.3%		1.8%	
		1.8%	0.7%	3.3%	0.0%
パートタイムの仕事	0.9%		3.6%		
	1.4%	0.9%	1.7%	5.9%	
自営業・家業	0.5%		2.7%		
	0.3%	0.5%	5.0%	0.0%	
その他	1.9%		0.9%		
	1.8%	1.8%	0.0%	2.0%	
(進学希望の理由) (複数選択可)	専攻分野の更なる勉強	41.9%		11.1%	
		39.2%	43.7%	0.0%	33.3%
	役に立つ資格取得	38.4%		55.6%	
		41.9%	44.1%	50.0%	66.7%
	つきたい仕事に必要な	33.4%		11.1%	
		32.7%	29.7%	16.7%	0.0%
	四年制大学の卒業	31.3%		11.1%	
		27.6%	14.0%	0.0%	33.3%
	更に教養をつけたい	30.1%		22.2%	
		24.9%	30.6%	0.0%	66.7%
別分野の勉強をしたい	21.5%		55.6%		
	20.3%	25.3%	50.0%	66.7%	

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
将来の仕事を選ぶ上で重視すること	職場の雰囲気良さ	4.7		4.6	
		4.7	4.7	4.6	4.7
	自分の適性を活かす	4.4		4.4	
		4.4	4.5	4.3	4.5
	雇用と身分の保障	4.2		4.2	
		4.3	4.2	4.2	4.2
	短大等で得た知識技能の活用	4.2		4.2	
		4.1	4.4	4.1	4.2
	余暇のためのゆとり	4.2		4.3	
		4.2	4.2	4.3	4.3
	仕事と家庭の両立	4.1		4.3	
		4.1	4.3	4.3	4.2
	社会に役立つ機会	4.1		4.1	
		4.0	4.3	4.1	4.2
	男女差別がないこと	4.1		4.1	
		4.1	4.2	4.0	4.2
	高い収入	4.0		4.2	
		4.1	4.0	4.2	4.2
	社会的な評価	3.9		4.0	
		3.9	4.0	4.0	4.0
昇進の見通し	3.7		3.8		
	3.8	3.7	3.9	3.7	
地元で働けること	3.6		3.3		
	3.5	3.8	3.4	3.3	

短大卒業後の希望進路に関しては、調査短大全体とほぼ同じように、本学学生も「正規の職員として就職」することを希望している（83.8%）。本学学生の4年制大学等への進学希望者は9人（「食栄」6人、「こども」3人）である。進学理由はその9人の調査結果である。前章の最後で家族の思いとして進学希望が「食栄」18人、「こども」23人いたが、学生本人の希望とは数値が大きく異なっている。

将来の仕事を選ぶ上で重視することに関しても、調査短大全体とほぼ同じであるが、本学学生の上位は、「職場の雰囲気の良さ」「自分の適性を活かす」「余暇のためのゆとり」「仕事と家庭の両立」である。「地元で働けること」のウエイトは意外に低く、重要視度は最下位である。本学の場合、地元出身者の進学率は低いので（34.5%）、調査短大全体よりも「地元で働けること」の評価点が低いことは予想されるが、短大全体も意外と低い。調査原表をみると、調査短大全体で重視するが54.9%、重視しないが20%である。本学の場合、重視するが「食栄」52.5%、「こども」48.0%、重視しないが「食栄」26.2%、「こども」32.7%である。短大教育の特徴のひとつは、地域とつながりをもつ地元志向であるといわれているのであるが、学生の地元志向は50%前後である。それでも4年制大学と比較すると地元志向が高いのかもしれない。

(2) 望ましい女性の生き方と男性の生き方

望ましい女性の生き方に関しては、下記の表にある通り、「結婚や出産時に仕事を辞めるが、子どもが一定の年齢になったら再び仕事に就く」が調査短大、本学とも第1位で、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」が第2位である。望ましい男性の生き方はその反対に、後者が圧倒的に第1位、前者が比率は低くなって第2位である。女性の場合、「結婚や出産時に仕事を辞める」が1割近くいる。

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
望ましい女性の生き方	結婚や出産時に仕事を辞めるが、子供が成長して仕事	62.2%		62.7%	
		59.3%	68.3%	60.0%	66.0%
	結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	23.0%		22.7%	
		24.1%	20.2%	21.7%	24.0%
	結婚や出産時に仕事を辞める	8.9%		9.1%	
		9.1%	7.8%	10.0%	8.0%
	結婚しないで仕事を続ける	2.1%		3.6%	
		3.1%	1.0%	5.0%	2.0%
	仕事に就かないで結婚する	0.7%		0.0%	
		0.9%	0.5%	0.0%	0.0%
仕事に就かないで結婚し、子供が成長して仕事に就く	0.6%		1.8%		
	1.0%	0.5%	3.3%	0.0%	
その他	2.4%		0.0%		
	2.5%	1.7%	0.0%	0.0%	

		短大全体		本学全体	
		家政	教育	食栄	こども
望ましい男性の生き方	結婚や出産にかかわらず仕事を続ける	85.3%		85.7%	
		87.6%	82.2%	83.6%	88.0%
	結婚や出産時に仕事を辞めるが、子供が成長して仕事	6.4%		7.6%	
		4.4%	9.4%	7.3%	8.0%
	結婚しないで仕事を続ける	1.8%		2.9%	
		2.2%	1.1%	5.5%	0.0%
	結婚や出産時に仕事を辞める	0.9%		1.0%	
		0.8%	0.9%	1.8%	0.0%
	仕事に就かないで結婚する	0.1%		0.0%	
		0.2%	0.1%	0.0%	0.0%
仕事に就かないで結婚し、子供が成長して仕事に就く	0.1%		1.0%		
	0.2%	0.1%	1.8%	0.0%	
その他	5.3%		1.9%		
	4.7%	6.7%	0.0%	4.0%	

(3) いま人生において最も重視していること

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
楽しい毎日の生活	53.4%		54.5%	
	50.9%	56.5%	55.0%	53.8%
家族や身近な人との生活	13.6%		9.8%	
	14.4%	14.0%	10.0%	9.6%
豊かな経済力	8.2%		11.6%	
	9.0%	6.9%	11.7%	11.5%
健康であること	8.4%		13.4%	
	8.5%	8.9%	10.0%	17.3%

	短大全体		本学全体	
	家政	教育	食栄	こども
仕事での成功	7.8%		4.5%	
	8.1%	6.9%	6.7%	1.9%
趣味やスポーツ活動	5.2%		3.6%	
	5.8%	4.1%	5.0%	1.9%
社会や他人への奉仕	1.1%		2.7%	
	1.0%	1.0%	1.7%	3.8%
社会的な地位	0.4%		0.0%	
	0.5%	0.1%	0.0%	0.0%
その他	1.9%		0.0%	
	1.8%	1.7%	0.0%	0.0%

いま人生において最も重視していることに関して、本学の学生の過半数は「楽しい毎日の生活」を選択し、「健康であること」「豊かな経済力」「家族や身近な人との生活」をこの順にそれぞれ1割前後の学生が選択している。

おわりに

以上「短大在学生調査」に基づいて調査短大全体との比較対照のもとに分析してきた本学教育の特徴と課題を再確認すると、次のようになる。

評価できる点は、教員と学生とのコミュニケーションがよくとれていること、そのため学習支援に対する満足度が若干高いこと、親や友人の勧めで本学に入学する学生が多いこと、立地条件や施設設備がよいこと、である。

課題点は、本学進学を考えていなかった学生が多いこと（1年前65.2%）、地元の高校からの進学者が少ないこと（平成21年度34.5%、平成22年度43.6%）、学習習慣のついていない学生が入学してくること、そのため授業中の私語や携帯電話使用が多いこと、サークルや部活動に少し不満を持っていること、学外体験（実習やインターシップ）の機会が少ないこと、そのため将来の職業への方向づけが入学前の期待度より低いこと、である。

評価できる点は、今後もさらに活かしていくよう全教職員で取り組むことで、本学の特徴を強化していきたい。

課題点は、地元からの入学生を増やすこと、私語・携帯電話使用のない授業をすること、部活動の活性化、学習と職業との結びつきを強化することである。

学習習慣のついていない学生に私語・携帯電話使用のない授業をするためには、授業の工夫が必要である。FD活動のより以上の活性化が必要である。

職業への方向づけがみえるようにするには、学外実習が重要になるが、本学の場合、入学後半年間は学外実習がほとんどない。そのため、本調査では入学前の期待度より下がっていると考えられる。しかし、職業への方向づけをするためのカリキュラム設計は必要である。

地元からの入学生を増やすためには、本学のよさを積極的にアピールしていかなければならない。短期大学の全般的な特色は、地域とつながりをもつ地元志向であるから、本学も地元が必要とされ地元へ貢献できる短大であることをより強力に打ち出していく必要がある。その取り組みのひとつが、大橋駅前の「子どもプラザ」運営であり、地域の子育て組織との連携や「こどもまつり」、学生による近隣学校のサポート、南区食育推進連絡部会への参加協力、高大連携、公開講座等々である。これらの地道な活動を通して、地域の人々に、本学の地元貢献の認知度を高め、本学が必要であることを周知していただかなければならない。また、これらの取り組みが、学生の職業意識への方向づけを高めるものとなるように配慮されなければならない。

以上の本学の取り組むべき課題は、その細部が有機的な関連性をもつものとして設計されなければならない。今回の件は、「調査」結果の分析が中心で、課題に対する対策設計は今後の研究課題としたい。

謝辞

本研究は、はじめに述べたように、「短期大学コンソーシアム九州」によって実施された「短大在学生調査」のデータ提供に基づいて遂行された。この調査に関する研究代表者の安部恵美子長崎短期大学学長には、平成21年度の本学FD講演会（平成22年2月18日）にて、本調査情報を取り入れたご講演「短期大学の過去・現在・未来」をしていただき、本研究はそのときの資料を参照させていただいている。また、「第28回短期大学の将来構想に関する研究会」（短期大学コンソーシアム九州主催）での安部先生をはじめ諸氏の発表資料も参考にさせていただいた。安部先生ならびに「短期大学コンソーシアム九州」の方々にはひとかたならぬご支援をいただいた。ここにそのことを記して感謝いたします。